

長浜の未来を創るまちづくり市民懇話会 第 2 回から第 4 回の結果概要

1. 資源を暮らしに活かすまち

1.1 10～30 年後に幸福を感じながら暮らせる長浜市のすがたと実現のための要素・視点

テーマ	10～30 年後、市民が幸福を感じながら暮らすことのできる長浜市とは、どんなまちでしょうか？	そのまちを実現していくために、重要となる要素・視点は何か？	
資源を暮らしに活かすまち	●現在の人口規模が維持されており、移住しやすい制度の整ったまち ※紹介、補助など ●買物・医療・教育などが、市内どこでも同水準で生活できるまち ●一方で、たとえ不便であっても、その状況を楽しんだり地域の協力などでカバーできるまち ●地域の歴史的遺産、伝統行事、文化、環境などが持続され、賑わいがあるまち ●水・緑・生き物など、大自然と共生した環境にやさしいまち ●家や道具を大切に修理して長く使うなど、持続可能でエネルギー、食、経済の循環が見えるまち ●農業分野・食分野を基盤とした六次産業化や地域づくり（教育・健康・伝統文化・農・観光）が発達するまち ●近くに働く場所があり、安定した雇用と収入が確保されるまち ○活力ある産業をもとに発展する魅力あるまちづくり ○地域での資源循環を実現し、それによる雇用を育む	状況や背景を知る	・一次・二次産業の環境を知らない ・マニュアル化しても机上だけになる ・流れを知る、バランス ・第三次産業ばかり増える ・農業の誇り ・ステータス ・自然をつくる命の仕事である
		自然・資源に触れる	・遊びながら体験し学ぶ⇒資源（自然）を残す ・安心して育てられる ・自然とのふれあい
		自然の活用方法	・風が強い⇒エネルギー ・循環⇒雇用 お金もまわる ・障がい者も雇用する⇒社会にも伝わる ・自然のブランド化が必要 ・どこにでもある魅力ではダメ⇒長浜ならではの目玉を ・もっと突っ込む長浜学
		人と自然との関係性を考える	・三方良しの精神 ・人も自然もでこぼこでいい ・きれいごとでない環境保全、自分たちのため ・コミュニケーション⇒人と人との関係⇒人が幸せになるため
		若い力の活用	・発信。若い力が必要 ・学校、学力、喜び、誇り
		自立するために必要な視点	・収入を上げる。マネジメントする、育てる ・儲けたら人を育てる⇒地域のためになる ・「あかん」決めつけていたことへの可能性 ・パトロン⇒地域のために返す ・不可欠な生産 ・資源（農産物）の生産だけでなく自ら発信 ・創造性の喚起 ・地元のもの、本物、共に発展 ・自分たちのために環境を守る ・食育⇒子供
		どこから頑張るか	・対価を見極める ・大規模は難しい⇒付加価値 ・評価（米価）おいしい、安心、本物

1.2 実現に向けた取組みのアイデア

取 組 み の アイ デ ァ			
項目	現状／課題	考え方	取り組み方法
長浜の資源とは何か	・人材 ・自然環境 ・文化 ・曳山祭 ・太鼓踊り ・地域が所有する産業 ・資源が分散している	・外に開放する ・つなぐことが大切	・長浜国宝の認定 ・継続的に話し合える場づくり ・人と人をつなぐ仕組みづくり ・初心者・ベテランなど、観光客のレベルに応じた戦略が必要
資源はなくしてはならないもの 資源が雇用等を生み出す	・保全の仕方を知らない ・旧町から抜け出せないのが課題 ・いつ取組むことが適当なのか	・まちの状況や背景を知る ・祭りの由来を知ることが大切 ・伝え方が大切	・勉強会等の開催 ・学校での郷土教育 ・情報誌による周知 ・村自慢
どのような展開方法があるか	・色々なことができる ・キーパーソンが重要 ・世代によって価値観が異なる	・自然のエネルギーを活かす ・水資源の活用 ・異業種の交流 ・よそ者を呼ぶ ・伝統をイベントとして楽しむ ・伝統を引き継ぐ ・移住につながるように	・商業施設が農園経営する ・野菜づくり ・小水力発電 ・森の学校 ・拠点づくり ・空き家の活用 ・廃校の活用 ・田舎暮らしを体験 ・養蚕
不便な日	・便利になりすぎた	・不便な日をつくる ・助け合わざるを得ない不便な日を設定し、助け合えるきっかけづくりを	・「お金を使っちゃいけない日」や、「誰かと何かを交換しないといけない日」を設定する ・物々交換の仕組みをつくる ・フリーマーケット、物々交換の機会をつくる ・「〇〇できます」「〇〇あげます」カードをつくり、助け合いや、つながりのきっかけとする
モノでコミュニケーション	・物が溢れている ・コミュニケーションの機会が減った	・モノでコミュニケーションを図る	・スワップシート（町内ごと） ・埋もれ本市 ・本の持ち寄り ・シェアカード、スキルカード ・空き家利用の居場所づくり
言葉は資源	・言葉は資源であり、背景に暮らし・文化・歴史がある	・次世代へ「つなぐ」 ・資源・空き家をつなぐ	・「戦国の聖地」"観光の里"を核に全体をつなぐ
子どもワクワク	・楽しみながら、長浜を知る場所・機会が少ない	・映画館など、子供が楽しむ場	・子供の自然学校のようなプログラム（自然資源を活用）
町家の活用		・古い建物の活用（街道筋）家の開放、庭 ・町家ファンドも県外にPRすべき ・古民家活用のための税負担軽減	・「こんな生き方ができる」という売り方
情報ストック活用		・「長浜みーな」等の蓄積情報を整理、活用する	・地域を知る「長浜学」を学校でも

2. 交流を通して誇りを持てるまち

2.1 10～30 年後に幸福を感じながら暮らせる長浜市のすがたと実現のための要素・視点

テーマ	10～30年後、市民が幸福を感じながら暮らすことのできる長浜市とは、どんなまちでしょうか？	そのまちを実現していくために、重要となる要素・視点は何か？
交流のまち	●働く場、交流の場、発信の場、創造の場など、様々な環境があり、あらゆる人にとっての居場所があるまち ●老若男女が集い、世代を超えてコミュニケーションできるまち ●人としての尊厳が大切にされ、人を敬い家族や友人を大切にしながら、みんなが輝けるまち ●多様な学びの機会があり、生きがいや楽しさを感じながら心の優しい人間が育つまち ●昔ながらの原風景が見られるまち ※子供が外で遊び、大人が井戸端会議をしている等	大きな考え方 ・家庭や地域以外のコミュニケーションの場が必要 ・長浜のライフスタイルをPRできるような活用はできないか ・環境が違う人を大切にできる教育が重要 ・雇用がないと長浜に帰って来れない、住めない
		面白さの発信 ・イベント等の情報がわかる、サークルの実態がわかる総合情報誌やHP ・発信する機会や手段を構築する ・情報がきちんと伝わっていない、ニーズも拾っていない ・他のみんなは何してる？わからない ・地場産業の良いところがある、でも知らない ・ふるさと情報、地域の風景を転出者に発信 ・面白さをいかに伝えるか
		長浜の良さの活用 ・地縁組織がある ・地縁イベントがある ・受け継いできたまちの誇りがある。故に受け入れ難い？ ・人のあたたかさや、ふるさととの原風景に引きつけられる ・声をかけ合うまちがある
		拠点づくり ・施設の充実、拠点づくり ・集える施設、ネットワーク化も ・地域を結び拠点をつくる ・コミュニティ施設がある ・ヤンマーミュージアムの活用
		空き家活用 ・空き家を活用できるか
		受入体制 ・受け入れ体制が重要
		移動手段の確保 ・インフラの整備、公共交通機関 ・行きたい所に行きたい ・利用の動機づけ、意識づけが必要
		交流 ・世代間 ・男女間 ・コミュニティ間 ・異文化間 ・地域間 ・先人の知恵を聞ける場所があれば ・身近なおじいちゃんおばあちゃんと触れ合いたい ・大人から子供へつなげる・伝える ・多世代の人が集まれる場所 ・地元出身の偉人と触れ合える機会があれば誇らしさの醸成になる ・男女の出会いの場、イベントの開催 ・地元のコミュニティがうすい、つながりにくい ・英会話教室、異文化交流 ・地域同士を結びつける仕組み（公民館・自治会館） ・観光に来た人が地元の人と会える場所、内外の交流
		違いを楽しむ ・異文化を楽しむ、内外の違いを楽しむことが大事 ・魅力発見・違いを楽しむ。居住に結びつける

テーマ	10～30年後、市民が幸福を感じながら暮らすことのできる長浜市とは、どんなまちでしょうか？	そのまちを実現していくために、重要となる要素・視点は何か？
誇りを持てるまち	●「これぞ長浜！」と住民が口をそろえて言えるようなオリジナリティのあるまち ●創造性豊かなひとづくりと子供の育成がすすむまち ●まちづくり意識が高く、市民が長浜の魅力に詳しいまち ●歴史・文化・自然などに敬意を払いながら、自分の住む地域に誇りと自覚を持てるまち ●イベントや非日常的な楽しみが充実し、海外や他県の観光客が楽しみながら滞在できるまち	まちを好きになる 自慢できる 誇りを持てる ・帰りたい、帰って来たいと思うまちをつくる ・誇りがまちづくりのエネルギー ・生まれ育ったまち＝好きでないと！ ・住んでいて良かった＝自慢
		まちの魅力発見 ・長浜の良さを発掘する、気づく機会がある ・様々なイベントを貫くテーマで長浜を知る ・市のオリジナリティやルーツを学ぶ機会を！ ・まちを知らないという誇りも持てない ⇒企業人への長浜を知る機会をつくるシステム
		交流（内外や子供） ・外の人に気づかせてもらう機会をつくる ・共通項を通して他のまちと交流する ・市内の子供同士の交流 ・子供同士のまち自慢
		教育の場の活用 ・郷土愛を育む教育 ・各教科での副読本をつくる ・市の副読本開発「かんのん」など ・きっかけは「子どもの教育」正規のカリキュラム ・高校生をターゲット、巻き込み ・子供の頃から農業、林業、漁業などをより学べる教育を
		PR ・市の広報に市民のコラムを（市民自身が発信する） ・魅力づくりや発信、人が残って集まる循環
		取組み方 ・人のつながりをたくさんつくる ・カメラを趣味にする ・歴史を現場で学ぶ ・歴史資源が教育資源に ・琵琶湖を見る、空を見上げる ・地域の食材を食べる ・祭りに参加する ・車に乗らず歩く ・長浜の偉人・賢人を皆が知って、モデルにする

2.2 実現に向けた取組みのアイデア

取 組 み の アイ デ ァ			
項目	現状／課題	考え方	取り組み方法
移動手段の確保	・ レンタカーは長浜向きでない	・ 魅力発見に活用できるような移動手段を ・ 小回りのきくバスと拠点が必要 ・ 田んぼ・集落など地域の風景をゆっくり楽しんでもらいたい ・ おしゃれな感覚で楽しめるイメージを醸成したい	・ 自転車やバイクでのカメラワークを流行らせる ・ レンタサイクル ・ 自転車ツアーや制度整備を行えば、外国人はよく利用するだろう
内外・子供など様々な人の交流	・ 集まれる場所があると活動しやすい	・ スポーツの森・水鳥ステーションの活用 ・ 多世代が趣味で交流する	・ 「趣味の家」として空き家を使ってもらう ・ 趣味ならばお金は自分達で出しやすいかも ・ 様々な世代が一緒に楽しめるサッカー大会
まちの魅力発見 長浜の良さの活用 まちの自慢・誇り	・ 駅と琵琶湖が至近距離にある好立地	・ 商業と自然の一体感 ・ 図書館やカフェなど人が集えるような整備 ・ 琵琶湖と長浜駅（近い）をつなぐ ロケーションのアピール&商業施設 ・ 「本物」と「ローカル」が key	
教育の場の活用	・ 高校生ならば、少し視野が広がり身近な大人としての役割を担える	・ 将来は戻って来てほしい ・ 仕事の楽しさをずっと忘れない思い出にしてみたい ・ 元気なお年寄（60～70 歳）が先生（核）となってほしい	・ 高校生を対象に郷土愛を育む教育 ・ 小・中学校への高校生の派遣 ・ 長浜の産業も学べるよう、学校でのキッズニアプログラム ・ 勉強・部活・人生経験等を、大学生から中高生が学ぶ学習会の開催
面白さの発信 PR	・ 京都から1時間と、至近距離	・ 長浜の楽しみ方のイメージを正しく伝える ・ 「京都の奥座敷」と言ってみる ・ Youtube などへ PR できるようノウハウを学ぶ	・ 学生や在住外国人視点での PR ムービーの配信 ・ いつでも手軽に見れる長浜市のアプリを作成
拠点づくり	・ 京都への観光客を引っ張ってることが大事 ・ 飲食や宿泊施設等の受入体制の整備が必要	・ 家族皆で行ける場所を作りたい ・ 常に長浜の未来を意識的に語れる場が欲しい ・ 緑の多い公園の活用（BBQ を楽しめる等） ・ スマートエコタウンの計画も必要	・ 競技場の建設 ・ 長浜に空港をつくる ・ 複合施設の建設 ・ 若者などが集えるワーキングスペースづくり
楽しい移動手段	・ コミュニティバス、自転車など、交通状況に市内地域差がある	・ 施設・場所ごとにアクセス手段をきちんと考え整備 ・ 長浜駅を中心に多様なモードを組み合わせ	・ “歩くまち”として外へ PR ・ バスネットワークの充実と乗るための戦略 ・ 自転車・徒歩で知らないことを発見（学び・生活・観光） ・ レンタサイクルシステム ・ サイクルツアーガイド
北国街道	・ 北国街道（南）、木之本も歩いて楽しい魅力がある	・ ヤンマーミュージアムを核として周辺資源と連携	

3. 子どもの力が活かされるまち

3.1 10～30 年後に幸福を感じながら暮らせる長浜市のすがたと実現のための要素・視点

テーマ	10～30 年後、市民が幸福を感じながら暮らすことのできる長浜市とは、どんなまちでしょうか？	そのまちを実現していくために、重要となる要素・視点は何か？
子どもの力が活かされるまち ●「子育て」と「女性の視点」がキーワードのまち ※10 年後の人口減少を予測した範囲で、若い世代が訪れ、住まいとして選択して頂けるまちとなるためのキーワード ●教育が充実し、子供達が安全・安心に暮らせるオープンな学園都市のまち ●時代に合った集落のあり方を考え・受け入れるとともに、若い世代の力が発揮できるまち ●20～40 代の若者の感性を活かしたデザインを取り入れ、地域づくりや発信が盛んに行われているまち	教育 子供が育つ関係 子供を増やす 子供が大人も学び育つ関係 若者が活躍 時代の移り変わりを受け入れる	子供の力が生きるとは ・お互いに愛することのできるまち ・伝統（昔）×デザイン（今） ・男女共同社会 ・例えば、保育園、女性（母の職場）
		コミュニケーション ・日本人は働き過ぎ→家族のため→弊害も ・コミュニケーションが大切 ・コミュニケーションが減っている（子 vs 親・若者 vs 高齢者） ・若者×高齢者（コミュニケーション、世代を超えて） ・夫婦（子の両親）のコミュニケーション不足 ・子供に言葉で伝えることが大切、コミュニケーション ・愛とコミュニケーション
		子供を増やす ・まちの将来を担うのは子供たち ・子供を育てやすいまち ・子供の数を増やす
		教育 ・特色のある教育システム ・次世代につなぐこと（教育）の大切さ ・学習塾 ・長浜ならではのもの：例えば外国語教育の先進地など ・小中一貫校などの特色 ・子供の個性、勉強だけでない ・これからのこと、見えないもの、可能性を楽しむ器
		子供も大人も学び育つ関係 ・大人の教育も大切 ・子供が良い見本（大人）を見て育つこと ・愛情を子供の時から与えられる親・家族 ・今の親は忙しく、子供に対する思いやり、心のこもった教育が不足
		若者が活躍 ・元気な若者が増えてほしい ・若者が集まるまち（仕事、雇用） ・若者が住み続けるまち ・高校生が地域で活躍（活動）している ・高齢者が若者に安心してバトンタッチ
		時代の移り変わりを受け入れる ・競争 成長期 力のあることがどんどん大きく強くなった時代 ・共生 成熟期 次世代のために成す 教育・子育ても変わる ・集落の古いしきたり

3.2 実現に向けた取組みのアイデア

取 組 み の アイ デ ァ				
項目	現状／課題	考え方	取り組み方法	
新しい価値観の創出	・ 経済中心の価値観。何か が失われてきている。 ・ 物が豊かになり、自分中心の 雰囲気がある。	・ 若者の活躍に期待 ・ 地域の変化を受け入れる包容力 ・ 多様な人材の育成と活用 ・ 家族教育の重要性	・ 新しい価値観の創出・共有 のための仕組みづくり (教育・コミュニケーション を通じて)	
子どもの教育	・ 子どもはまちの希望、宝 ・ 将来の社会を担うのは 子ども	・ 教育のベースは(物を与えるの ではない)親の愛 ・ 子育てを学ぶ・伝えるための 大人への教育 ・ 地域で子どもが育つ環境 ・ 子どもが主役のまち、場づくり ・ 人に対して心を開く姿勢が重要	・ 子どもを育てやすい地域の 子育て環境の形成	
居場所・活躍の 場づくり	・ 昔は近所付き合いがあっ たが、今は希薄。助け合い の精神がなくなっている ・ 居場所がない人のも社会 への参画の機会を。	・ 多様な人の価値観が交じり合 うことが重要 ・ 子どもの居場所づくり ・ 対価の得られるボランティア活動 ・ 知恵の活用・助け合い ・ つながりを取り戻す	・ 多様な人が地域社会に参画 できる仕組みづくり、助け 合いの仕組みづくり(共助)	
コミュニケー ション	・ 各種の社会サービスが豊 富になり、人との関わり がなくても生きていける 社会になっている	・ 生身の人への興味をもつこと が重要	・ コミュニケーションのスキ ルアップ	
ワークライフ バランス	・ 大人は忙しく、 日々仕 事に追われている。地域活 動に参加する時間がない。	・ 大人の時間、余裕が大事 ・ 価値観の転換 ・ 働き方の工夫、バランス ・ 心と体の健康のバランスをと ることが重要	・ ワークライフバランスの価 値観の浸透	
コーディネート 仲介	・ 子供を持つ世代が減り、 子供と接する場が少なく なっていると同時に、縦 のつながりも薄く ・ 子を対象にすると準備が 必要	・ いろいろな人を結びつける場 づくり ・ 仲介の場があったら良い ・ コーディネーターの存在 ・ 色々な世代と触れる ・ 色々な価値観に触れる	・ 寺子屋ネット ・ 地蔵盆(6年生主体) ・ 学生を巻き込んだワークシ ョップの開催	
感覚と責任を 養う	・ 自分のものさしが持てな い ・ 子供が自由にできる場が あれば ・ 強制的に参加させないと 出てこない状況もある。 一歩を出すためのきっか けづくりが必要	・ 子供の危ない経験は役に立つ ・ 誰もがチャンスのある地域づ くり ・ 状況によるが自分ができるこ とを少しずつする	・ 幼少時の経験づくり ・ 責任を持たせる経験を ・ 五感を鍛えることが大切 ・ 様々な参加機会の提供 →観戦チケットの無料配 布など	
情報提供	・ 若い世代への情報提供が 必要	・ 情報の収集	・ 遊び場マップづくり ・ アーカイブ(遊び場)があ れば	
遊び場づくり	・ 任せてもらう経験が少な い(親主体)	子供が飽きない場づくり 自然と触れ合う 支援をする、見守るという取組 若い人がそこで子供を育てたい という地域ならではのものを 子供は褒めた方が嬉しい	・ 冒険、遊び場 ・ 川遊び ・ 森の学校 ・ 子供達を表彰する場づくり	
教育現場との 連携	・ 校歌に地域の名が入って いない ・ スクールバスとコミュニ ティバスが統一されてい る	・ 地域の資源の良さを日常で経 験させる ・ 木で作られた建物	・ 市民が学校教育に入る ・ 教育現場での様々な視点を 取り入れる ・ 小学校での様々な視点での 教育	

3.3 安心して助け合えるまち

3.3.1 10～30年後に幸福を感じながら暮らせる長浜市のすがたと実現のための要素・視点

テーマ	10～30年後、市民が幸福を感じながら暮らすことのできる長浜市とは、どんなまちでしょうか？	そのまちを実現していくために、重要となる要素・視点は何か？
安心して助け合えるまち	●身近に助け合える人がいる、安心・安全で健康的に暮らせるまち ●身近な場所で教育、医療、福祉や生活支援が充実しているまち ●多様な暮らし方が認め合え、お年寄にも役割と居場所があるまち ●地域で起きた問題は地域で解決していけるまち ※最近では自治会から自警団に入ってもらうのが難しい ●市民が市内で憩うことのできる場があるまち（相談～retreat） ※retreat=仕事や家庭生活等の日常生活から離れ、自分だけの時間や人間関係に浸ることで自分を見つめなおす場所	人材の育成と活用 ・支える人達に対価のあるしくみ ・支える人材で特にリーダーシップ開発を！ ・人を助ける・人を支える人材づくり ・支える側にまわる時の学習機会を ・地域で働く医療職の確保 ・支える人材バンクをつくる ・支える・支えられるための“マーケット”をつくる ・支える力を持っている人の出番があるまち
		先輩の知恵の活用 適材適所の助け合い ・お年寄の方から経験を聞く・学ぶ ・じーばークラブの広がり ・60歳代以上の人々が支える側に ・全世代が活躍できる。お年寄が子供を見守るまち ・子育て世代のサポート ・助け合いの基本例 ①生きるための収支バランス→作業所賃金 ②衣食住の食（買い物に行けない） ③入院費見直し→幸福にもっていくには ③風呂 ④仲間・関わり・助け合い→知ってもらう
		福祉 ・高齢者や障がい者の公共交通が無料 ・孤独を防ぐ。交通・移送 ・市営入浴施設によるコミュニティの場 ・障がい者の働く場所がある ・病気・障害の早期予防（身近な医療機関）
		防災 ・災害が起こった際の避難方法・場所が決まっている ・外国人にも理解しやすいよう、安心・安全に関する表記等も英語
		地域での取組み ・地域を支える組織・グループを支える ・各字（コミュニティ）に自警団がある ・地域毎に計画・取組をつくる
		子どもの居場所づくり ・放課後の子供達の居場所がある ・放課後児童クラブ。強制的でなく選択できる方がよい ・気軽に声かけられる

3.3.2 実現に向けた取組みのアイデア

取 組 み の アイ デ ァ				
項目		現状／課題	考え方	取り組み方法
新しい価値観の創出		・経済中心の価値観。何か失われてきている。 ・物が豊かになり、自分中心の雰囲気がある。	・若者の活躍に期待 ・地域の変化を受け入れる包容力 ・多様な人材の育成と活用 ・家族教育の重要性	・新しい価値観の創出・共有のための仕組みづくり（教育・コミュニケーションを通じて）
居場所・活躍の場づくり		・昔は近所付き合いがあったが、今は希薄。助け合いの精神がなくなっている ・居場所がない人のも社会への参画の機会を。	・多様な人の価値観が交じり合うことが重要 ・高齢者の居場所づくり ・障がい者の居場所づくり ・子どもの居場所づくり ・対価の得られるボランティア活動 ・知恵の活用・助け合い ・つながりを取り戻す	・多様な人が地域社会に参画できる仕組みづくり、助け合いの仕組みづくり（共助）
コミュニケーションスキル		・各種の社会サービスが豊富になり、人との関わりがなくても生きていける社会になっている	・生身の人への興味をもつことが重要	・コミュニケーションのスキルアップ
ワークライフバランス		・大人は忙しく、日々仕事に追われている。地域活動に参加する時間がない。	・大人の時間、余裕が大事 ・価値観の転換 ・働き方の工夫、バランス ・心と体の健康のバランスをとることが重要	・ワークライフバランスの価値観の浸透
仲間づくりと役割分担		・フリースペースが要る ・お年寄の知恵の活用 ・悩みの相談、楽しい話 ・昔は色々な人が集まる場があった	・コミュニケーションできる場所があればいい ・共通の体験が大切 ・祭り、共同作業	・仲間づくりのためのコミュニティキッチン ・祭り等の行事には、色々な役割分担の仕組みがある ・祭りプロデューサーの育成
防災		・昼間は男性がおらず、女性の力が頼り	・女性視点を活かすことで、細かな点に気付くことができる	・女性の力による防災活動
地域の絆づくり		・公園町では、イベントの参加者が減っており、活気が無い ・楽しいイベントを開催したいが、日本人は失敗を嫌うのでチャレンジが難しい	・多様な世代が参加するイベント ・子どもを核にしたイベントが良い	・世代間を超えたイベント開催（若者×お年寄など）

